

平成 25 年度戦略的研究開発領域課題(S-11)の公募方針

1. プロジェクト名：

持続可能な開発目標とガバナンスに関する総合的研究

-地球の限られた資源と環境容量に基づくポスト 2015 年開発・成長目標の制定と実現へ向けて-

2. 研究プロジェクトリーダー：

東京工業大学大学院社会理工学研究科准教授 蟹江憲史

3. 予算規模：

年間約 2 億円（課題当たり数百～数千万円程度）

※予算規模は、直接経費及び間接経費、税込み。なお、委託の消費税は、総額（直接経費＋間接経費等）に掛かる。

4. 研究期間：

3 年間（平成 25～27 年度）

※研究 2 年目に中間評価を行う。

5. プロジェクトの概要

(1) 成果目標

- 2015 年以降の開発・成長目標としての持続可能な開発目標（SDGs）、評価指標のオプションや実施シナリオを科学的根拠に基づいて提示し、世界レベル、地域レベル、日本をはじめとした国家レベル、さらにはローカルレベルやセクターレベルにおける SDGs 設定に関する、学際的な科学的知見を提供する
- 資源・環境制約のもとでの 21 世紀型の持続可能な開発・成長のためのヴィジョンや方向性を科学的根拠に基づいて提示する
- 持続可能性を重視した開発・成長目標を設定するための国際政策研究ネットワークを確立し、その中心的役割を担う

(2) 研究概要

2015年に迎えるMDGsの目標達成期限を前に、目標達成へ向けた政策論議とともに、MDGs後の目標のあり方についての政策論議が高まりつつある。MDGsの達成に関しては、いくつかの国々で貧困レベル等の改善、開発援助の増進、多様なステークホルダーの参加促進などの評価もある。しかし、各国や各目標の達成度におけるギャップ、グローバル目標と国内目標の相対的な相違、あるいは、MDGsは途上国を対象として設定された経緯から、ドナー優先型の活動となっており、受益者のニーズが包括的に考慮されていないこと、等の問題点も指摘されている。

一方 MDGs 採択時(2000 年)と比較すると、今日では多様な行為主体の様々な活動への参加が増大し、多国間主義のあり方にも変化が生じている。さらには、経済及び財政危機、自然災害等による世界情勢の

不安定、新興国の躍進等の国際情勢の変化も相まって、MDGsでは十分対応しきれない新たな課題(例えば気候変動や再生可能エネルギー等)や、MDGs達成後もなお残された喫緊の課題(例えば失業人口の増大、食糧価格の高騰、所得格差の拡大等)も指摘されている。リオ+20の主要テーマである「持続可能な開発及び貧困根絶の文脈におけるグリーン経済」及び「持続可能な開発のための制度的枠組み」論議では、「持続可能な開発」の観点から経済、環境、社会の3つの側面への均衡ある対応が重要視され、MDGsと統合したポスト2015年開発目標としてのSDGs策定へむけたプロセスが合意されている。

こうした状況を踏まえ、本研究では、「資源環境制約の観点からの目標と指標」、「開発の観点からの目標と指標」、「持続可能な開発目標実現のためのガバナンスの研究」といった多角的視点からの分析を統合し、「資源環境制約下の成長・開発の方向性と目標及び効果的ガバナンスの提示」に向けた知見を提供する。これにより、国際的な持続可能な開発目標設定プロセスへの貢献、地域・国・あるいは都市レベルでの目標設定支援、国際及び国内における規範形成への貢献、持続可能な開発に対する国民の理解の深化等に貢献する。対象課題の性質が国際的であることから、本研究プロジェクトも可能な限り国際的ネットワークや国際研究コミュニティを活用し、実施する。

また、本プロジェクトは、環境省戦略的研究開発領域S-6(アジア低炭素社会に向けた中長期的政策オプションの立案・予測・評価手法の開発とその普及に関する総合的研究)、S-8(温暖化影響評価・適応政策に関する総合的研究)、S-10(地球規模の気候変動リスク管理戦略の構築に関する総合的研究)等と連携して研究を実施する。

6. プロジェクトの研究テーマ構成及びサブテーマ構成

本プロジェクトは、以下の4つのテーマ構成により、当該4テーマの下にサブテーマを設けて、各テーマ及びサブテーマ研究者が一体的に研究を実施する。全体構成及びテーマ・サブテーマ間の関係については、概要資料も参照のこと。

URL：http://www.env.go.jp/policy/kenkyu/suishin/koubo/koubo_1.html

資料名：戦略プロジェクト補足資料

研究提案の公募は、テーマ1からテーマ4の【公募】サブテーマについて行う。サブテーマは、原則として一つの研究機関で行う。

(留意事項)

- サブテーマのうち、各テーマの「【総括】サブテーマ(1)」は、テーマリーダーが担当し、テーマの総括を行うため公募は行わない。
- テーマリーダーが担当する【総括】サブテーマ(1)は各テーマ全体の総括班として機能し、サブテーマ間の研究調整・進捗管理を担当する。
- 研究提案は、【総括】サブテーマ及びその他の【公募】サブテーマと研究内容が連携するものであることが必要である。
- 各サブテーマのリーダーは、研究プロジェクトリーダー及びテーマリーダーの指示のもとで、他テーマ、サブテーマの研究者と緊密に連携し、一つの研究プロジェクトを構成する研究活動として研究を実施する。このため、テーマ1が組織する統合的な目標や指標検討プロセスへの参加や共著論文への貢献等、プロジェクト全体としての成果を生み出すプロセスに参加することが求められる。
- サブテーマリーダーは、応募したサブテーマの内容及びヒアリング等の審査過程での連

絡・対応について、総括的な責任を持つ。

- 研究提案を行う申請者は、研究提案の提出前にテーマリーダーに連絡をして提案内容（申請書）についてテーマに相応しい内容かどうか確認することが出来る（公募〆切の1週間前まで（厳守））。確認のあった提案内容（申請書）について、テーマリーダーはプロジェクトリーダーと相談の上、申請者にコメントを回答する。テーマリーダーの連絡先は、環境省地球環境局研究調査室（suishinhi@env.go.jp）までメールにて問い合わせること。

各テーマ及び公募するサブテーマの構成

テーマ名 及び テーマリーダーの担当するサブテーマ	公募を行うサブテーマ
テーマ1: 資源環境制約下の開発・成長の方向性と目標及び効果的ガバナンスの提示 サブテーマ(1): 全体統括及び目標・指標とガバナンスの総合的提示	サブテーマ(2): 持続可能な開発目標とその実現に資するボトムアップ事例の検討 サブテーマ(3): 目標や指標の定量的オプションやシナリオの提示 サブテーマ(4): 資源・エネルギー・食糧・水等の複合目標及び指標の検討 サブテーマ(5): 持続可能な開発と成長のためのヴィジョンの提示
テーマ2: 資源環境制約の観点からの目標と指標の提示 サブテーマ(1): Beyond GDP 目標と指標の提示	サブテーマ(2): 資源・環境制約下での開発及び成長実現のための目標や指標の提示 サブテーマ(3): 環境容量の観点からの制約条件の検討 サブテーマ(4): 資源の観点からの制約条件の検討
テーマ3: 開発の観点からの目標と指標の提示 サブテーマ(1): 教育分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示	サブテーマ(2): 保健・健康・衛生に関する分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示 サブテーマ(3): 経済開発分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示 サブテーマ(4): 水、エネルギー等社会の存続に関する領域におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示
テーマ4: 持続可能な開発目標実現のためのガバナンスの研究 サブテーマ(1): 持続可能な開発目標実施のためのマルチレベル・ガバナンスのあり方の検討	サブテーマ(2): 国連を中心とした持続可能な開発のガバナンスの検討 サブテーマ(3): 効果的資金メカニズムの検討

(1) テーマ1：資源環境制約下の開発・成長の方向性と目標及び効果的ガバナンスの提示

テーマリーダー：蟹江憲史（東京工業大学大学院 社会理工学研究科価値システム専攻 准教授）

① 成果目標

- 21世紀の持続可能な開発に必要な理念、哲学、規範、ヴィジョンの提案と、国際論議動向を踏まえたプロジェクト全体の方向性の提示
- 目標、指標、を科学的根拠に基づいて提案
- 有機的なチーム間連携の創出

② 研究概要

プロジェクト全体の成果目標の達成を目指し、テーマ1では、戦略課題全体の司令塔(総括班)として、テーマ間の研究調整・連携促進ならびに課題全体の進行管理の役割を担いつつ、各テーマが生み出す研究成果を総合化し、21世紀の持続可能な開発に必要な理念・哲学、規範・ヴィジョン及び目標、指標の科学的根拠に基づいた提示を行う。この目的達成のため、各テーマが提供する知見に基づき、総合的に国際的動向の分析及びこれに基づいた目標や指標の提示(サブテーマ1)、事例研究によるボトムアップの目標の検討(サブテーマ2)、目標や指標の定量的オプションやシナリオの提示(サブテーマ3)、複合的な目標及び指標の検討(サブテーマ4)、持続可能な成長と開発のためのヴィジョンを提示(サブテーマ5)する。また、研究成果を広くわかりやすく国民や国際社会に周知し、また、国際的な政策志向の科学コミュニティ形成によって持続可能性を開発アジェンダにメインストリーム化するため、国際的に認知された情報ネットワークとの連携や、PR戦略を考案、実施する。更には目標や指標設定のためのワーキンググループや全サブテーマ参加の合宿形式のワークショップ(年数回)の運営といったメカニズムを通して、プロジェクト全体の成果を統合し、プロジェクト全体を統括する。

③ 【総括】サブテーマ(1)：全体統括及び目標・指標とガバナンスの総合的提示

- イ) テーマ2～4が提供する持続可能な開発目標に関する定量的・定性的知見を総合的に組み入れた持続可能な開発目標・指標を提示し、そのためのガバナンスの検討を行う。その際、目標年、ポストMDGs及びSDGsをめぐる政治的動向分析、目標設定形式、目標設定や開発プロセスモニタリングのために必要となる情報基盤の検討、及び東洋哲学的発想を取り入れた、持続可能な開発のための理念や哲学、規範、ヴィジョンを提示する。
- ロ) プロジェクト内部におけるワークショップ・合宿形式での検討会等の開催等により、プロジェクト全体の成果物作成を行う。
- ハ) 国際的に認知された国際情報提供サービス(International Institute for Sustainable Development(IISD)が運営する Earth Negotiations Bulletin) チームとの連携によるエピソード・コミュニティの形成と、国際的及び国内的情報・広報戦略の形成を通じ、プロジェクト全体の成果について国内外に発信する。

④ 【公募】サブテーマ

以下のサブテーマ(2)～(5)について研究提案を公募する。

- 【公募】サブテーマ(2):持続可能な開発目標とその実現に資するボトムアップ事例の検討

- イ) 日本の強みを国際的に広めていく手段としての持続可能な開発目標のあり方を検討する。特に成長・雇用、防災、エネルギー等の分野において、持続可能な開発・成長目標の提示を行う。
- ロ) 開発途上国における持続可能な開発のための仕組みを検証し、目標あるいは指標の要素として提示する。その際、地域における能力開発と SDGs との関係を明らかにすることで、SDGs 実現に向けた課題を同定する。
- ハ) 上記目的達成のため、プロジェクト内ワークショップの形成など各テーマの協力を得ながらケーススタディを実施する。そのため、環境省や JICA の協力を得ながら、SDGs の実装事例を構築する。

➤ **【公募】サブテーマ(3): 目標や指標の定量的オプションやシナリオの提示**

- イ) 資源環境制約内での地球システム管理を可能にする、途上国の持続可能な開発（リープフロッグ）と先進国の持続可能な開発（成長）の目標を定量的に提示する。このため、各テーマの検討により提示された分野（テーマ）別目標を統合するための目標や指標の定量的検討を行う。その際、既存目標や指標（例えば MEA、UN、OECD、グリーン経済等の文脈における目標や指標など）の整理とギャップの分析（時期がずれているところの特定など）を行い、既存目標にかかるデータベースの構築を国際的に発信可能な形で行う。また、社会経済モデルを使用した 2030 年あるいは 2050 年といった特定年における目標・指標オプションの検討（グローバル及び地域レベル）を行う。
- ロ) 目標・指標設定ワーキンググループからのタスクアウトによる数値目標や指標の検討及び再検討を行うことで、プロジェクト内ワーキンググループの運営をサポートする。
- ハ) 上記検討結果及びテーマ 2～テーマ 4 の研究成果に基づき、いくつかのシナリオの統合からの新シナリオ構築、あるいは既存シナリオを援用することによって、目標が描く世界のシナリオの提示をおこなう。

➤ **【公募】サブテーマ(4): 資源・エネルギー・食糧・水等の複合目標及び指標の検討**

- イ) 本戦略研究課題のテーマ 2～4 を通じて得られる目標や指標に関する科学的知見について、資源、エネルギー、食糧、水等の主要な分野における目標を統合した新たな指標のあり方を検討する。
- ロ) 特にテーマ 3 が提示するような各分野間の複合目標や複合指標、統合が可能な領域、資源環境制約等に基づく環境と開発を融合させる新たな目標と指標のあり方の検討をおこなう。

➤ **【公募】サブテーマ(5): 持続可能な開発と成長のためのビジョンの提示**

- イ) 先進国については持続可能な価値観を創出し、開発途上国においては、先進国に経済的に「追い付け追い越せ」といった形ではない、真のリープフロッグを生み出すようなビジョンの検討を行う。
- ロ) グローバルな衡平性・公平性・普遍性とその表現方法の検討を通して、「共通だが差異ある責任」原則を超えるような社会的公正を体現する概念の創出を行う。例えば、人間の安全保障のような既存概念を参照しながら、持続可能な成長・開発や社会的公正（国際的・国内的格差解消・貧困問題解消）を創出しうる消費やライフスタイルを検討し、その実現を可能とするビジョンを提示する。その際、可能な限り東洋哲学的発想を取り入れるこ

とを検討する。

(2) テーマ2：資源環境制約の観点からの目標と指標の提示

テーマリーダー：馬奈木俊介（東北大学大学院 環境科学研究科 准教授）

①成果目標

- 資源環境制約に基づいた目標・指標の提示
- GDP を超える目標と指標の提示
- グリーン経済実現のための目標や指標の提示
- 多様な資源環境制約の提示
- 先進国に関してはライフスタイルの変更を促すような目標設定のあり方の提示

②研究概要

資源・環境制約の観点からの目標と指標のあり方を検討する。資源環境制約が持続可能な開発に与える影響を総合的に検討し、その観点から、多様な目標や指標のあり方を、可能な限り定量的分析を根拠として、提示する。これに基づき、多様な資源環境制約（Planetary Boundaries）を提示するとともに、先進国に関してはライフスタイルの変更を促すような目標設定のあり方も検討する。

多様な目標のあり方については、Beyond GDP を体現する目標と指標の提示（サブテーマ 1）、例えばグリーン経済実現のような、資源・環境制約下での成長及び開発実現のための目標と指標の提示（サブテーマ 2）、環境の視点からの制約条件（サブテーマ 3）や、資源の視点からの制約条件（サブテーマ 4）の検討を行う。研究成果に関しては、テーマ 1（統括班）が組織するワーキンググループ等に成果を提供し、統合的目標・指標設定に貢献することが求められる。

③【総括】サブテーマ(1)：Beyond GDP 目標と指標の提示

- イ) Beyond GDP 目標や、その実現のための活動の検討することで、GDP 中心の開発・成長ではない開発・成長を促す目標や指標のあり方を提示する。また必要に応じ、脱成長 (de-growth) の考えがもたらす社会・世界のあり方を提示する。
- ロ) 目標との絡みにおいて、Beyond GDP に関する評価指標のあり方を検討する。

④【公募】サブテーマ

以下のサブテーマ(2)～(4)について研究提案を公募する。

- **【公募】サブテーマ(2):資源・環境制約下での開発及び成長実現のための目標や指標の提示**
- イ) 資源・環境制約の下での開発及び成長に資する目標や指標のあり方及び、それらの決定過程を包括的に検討、分析する。例えばグリーン経済に関する指標としては、OECD の GGI (Green Growth Indicators)が存在し、これを示す指標には、資源の生産性、生物多様性やエコシステムの「ストック量」、環境技術や再生可能エネルギーへの「研究開発投資額」、安全な水へのアクセスを含んだ「環境的健康度」等がある。こうした「グリーン経済」、あるいは「グリーン成長」の概念に沿った目標や指標、あるいはその他の資源・環境制約の下での開発及び成長に資する目標や指標を整理・分析し、これにより、資源・環境制約を勘案しながら開発や成長を促進するための目標や指標を提案する。
- ロ) 既存の目標や指標について収集したデータをテーマ 1 に提供し、プロジェクト全体として

のデータベース構築に資する。

➤ **【公募】サブテーマ(3):環境容量の観点からの制約条件の検討**

- イ) 多様な資源環境分野における地球の収容能力面での制約条件の整理検討として、気候変動、海洋酸性化、成層圏オゾンの減少、窒素・リンの循環の変化、淡水利用の増加、土地利用変化、生物多様性の減少、エアロゾルの負荷、化学物質汚染等、できるだけ多くの分野での地球の限界に関するバウンダリの提示をし、その中での持続可能な開発追及のための知見を提供する。特に本テーマでは環境制約を取り上げる。
- ロ) 途上国の持続可能な開発と先進国の持続可能な開発（成長）による資源環境制約内での地球システム管理を可能にする目標・指標のあり方について検討（開発のためのスペースの検討）する。
- ハ) 上記の研究成果をプロジェクト内ワークショップ等の検討プロセスに還元する。

➤ **【公募】サブテーマ(4):資源の観点からの制約条件の検討**

- イ) 多様な資源環境分野における地球の収容能力面での制約条件の整理検討として、気候変動、海洋酸性化、成層圏オゾンの減少、窒素・リンの循環の変化、淡水利用の増加、土地利用変化、生物多様性の減少、エアロゾルの負荷、化学物質汚染等、できるだけ多くの分野での地球の限界に関するバウンダリの提示をし、その中での持続可能な開発追及のための知見を提供する。特に本テーマでは資源制約を取り上げる。
- ロ) 途上国の持続可能な開発と先進国の持続可能な開発（成長）による資源環境制約内での地球システム管理を可能にする目標・指標のあり方について検討（開発のためのスペースの検討）する。
- ハ) 上記の研究成果をプロジェクト内ワークショップ等の検討プロセスに還元する。

(3) テーマ3：開発の観点からの目標と指標の提示

テーマリーダー：北村友人（上智大学 総合人間科学部 教育学科 准教授）

①成果目標

- ミレニアム開発目標の未達成分野をはじめとする基本的人間ニーズ（BHN）充足の観点からの目標・指標の提示
- 政府開発援助（ODA）及びODA以外の方法による途上国の開発への提言

②研究概要

本テーマは、プロジェクト全体の中で、開発の観点から社会的要素に焦点をあてた研究を担当する。特に、ポスト・ミレニアム開発目標（MDGs）の観点から持続可能な開発のための目標・指標の検討をする。

開発分野のうち、特に教育、保健、健康、水、衛生等のMDGsに含まれる諸分野、あるいは、エネルギーのような新たに重要とされる分野の観点から、MDGs達成程度及びその要因を明らかにするとともに、MDGsの教訓を踏まえて、2015年以降の開発目標に必要な問題領域を明らかにするとともに、新たな目標及び指標の可能性について検討する。本テーマは、(1)人間の成長に関する領域（教育分野）、(2)人間の生存に関する領域（保健・健康・衛生に関する分野）、(3)社会の成長に関する領域（経済開発分野）、(4)社会の存続に関する領域（環境・

資源に関する諸分野〔水、エネルギー等〕という4つの領域における、成長及び開発実現のための目標や指標についての研究を実施する。いずれのサブテーマにおいても、ミレニアム開発目標の延長という視点から、ポスト2015年開発目標と指標の検討を行う。成果は、ワーキンググループ等でのプロジェクト全体の成果構築へ向けた知見を提供するとともに、テーマ2の研究成果との比較・融合の可能性に関する分析も行う。

③ 【総括】サブテーマ(1): 教育分野におけるポスト・ミレニアム開発目標 (MDGs) と指標の提示

イ) 教育分野でのMDGの達成度及びそのアプローチに関するレビューを行い、達成程度やその要因を明らかにするとともに、MDGsの延長としての目標及び指標の検討、あるいは新目標や指標のあり方の検討を行う。また、上記目標追及が持続可能性に及ぼす影響についての知見を提供する。さらに、同分野における、ODA及びその他の援助、あるいは、非援助による持続可能な開発のあり方についての検討と提案を行う。

④ 【公募】サブテーマ

以下のサブテーマ(2)~(4)について研究提案を公募する。

➤ 【公募】サブテーマ(2): 保健・健康・衛生に関する分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

イ) 保健・健康・衛生分野でのMDG及びそのアプローチに関するレビューを行い、達成程度やその要因を明らかにするとともに、MDGsの延長としての目標及び指標の検討、あるいは新目標や指標のあり方の検討を行う。また、上記目標追及が持続可能性に及ぼす影響についての知見を提供し、プロジェクト全体の成果に貢献する。さらに、同分野における、ODA及びその他の援助、あるいは、非援助による持続可能な開発のあり方についての検討と提案を行う。

➤ 【公募】サブテーマ(3): 経済開発分野におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

イ) 経済開発分野でのMDGの達成度及びそのアプローチに関するレビューを行い、達成程度やその要因を明らかにするとともに、MDGsの延長としての目標及び指標の検討、あるいは新目標や指標のあり方の検討を行う。また、上記目標追及が持続可能性に及ぼす影響についての知見を提供し、プロジェクト全体の成果に貢献する。さらに、同分野における、ODA及びその他の援助、あるいは、非援助による持続可能な開発のあり方についての検討と提案を行う。

➤ 【公募】サブテーマ(4): 水、エネルギー等社会の存続に関する領域におけるポスト・ミレニアム開発目標と指標の提示

イ) 環境・資源に関する諸分野（水、エネルギー等）でのMDGの達成度及びそのアプローチに関するレビューを行い、達成程度やその要因を明らかにするとともに、MDGsの延長としての目標及び指標の検討、あるいは新目標や指標のあり方の検討を行う。また、上記目標追及が持続可能性に及ぼす影響についての知見を提供し、プロジェクト全体の成果に貢献する。さらに、同分野における、ODA及びその他の援助、あるいは、非援助による持続可能な開発のあり方についての検討と提案を行う。

(4) テーマ4：持続可能な開発目標実現のためのガバナンスの研究

テーマリーダー：森秀行（(公財)地球環境戦略研究機関 所長）

①成果目標

- 持続可能な開発目標の効果的達成のためのガバナンスの仕組みの提示
- 国家、国際機関、科学者、NGO、ビジネス・産業界、都市や自治体といった多様な行為主体の役割分担やネットワークといった、インフォーマルな制度を通じた目標達成メカニズムの解明
- 国連システム及びその改革の方向性を環境とその他の問題領域との連関に留意しながら提示
- 持続可能な開発実現へ向けた、効果的資金メカニズムのあり方や民間資金の活用を含めた革新的資金メカニズムの提案

②研究概要

目標は実施を伴って初めて現実的な効果が発生するという前提に立ち、本テーマでは、多くの主体が目標達成に向けた努力をするための諸条件を明らかにする。持続可能な開発目標の実施は、現行の MDGs と同様に、主体間の役割分担などに関する明確な構造を持たない、法的な拘束力のないソフトでインフォーマルなものとなることが予想される。こうした制度の中で、国家に限らない多様な行為主体が目標達成へ向けてネットワーク化され、あるいは、いわゆる「有志連合（Coalition of the Willing）」を形成し、自主的な取り組みを行っていくことが目標達成のための中核的な活動となる。こうした状況において、目標達成のための各主体間の役割分担や調整、さらには、資金提供や情報の共有などの実施促進メカニズムを含む、効果的なガバナンスがどうあるべきかを明らかにする。

本テーマは、持続可能な開発と、その実現へ向けた目標及び指標設定というツールの効果と機能のメカニズムを明らかにするため、持続可能な開発目標実施のためのマルチレベル・ガバナンスのあり方の検討（サブテーマ 1）、国連を中心とした持続可能な開発のガバナンスに関する検討（サブテーマ 2）、および、効果的資金メカニズムの検討（サブテーマ 3）を行う。

③【総括】サブテーマ(1)：持続可能な開発目標実施のためのマルチレベル・ガバナンスのあり方の検討

- イ) SDGs のように目標設定に基づくソフトでインフォーマルなレジームにおいて、重層的レベル（グローバル、リージョナル、国、地域）で、多様な主体（国家、国際機関、科学者、市民社会、ビジネス・産業界等）が、目標の設定、実施、評価、見直しという SDGs をめぐる一連のサイクルにおいて、目的を達成するためどのような役割分担をすべきかなど、主体間の相互関係が如何にあるべきかを明らかにする。また、目標の達成に向け各主体の自主的活動を活性化するための推進メカニズム（(資金、権限付与、インセンティブ付与、情報共有メカニズム等を含む）の検討を行う。
- ロ) 民間セクターにおける自主的イニシアティブや非政府主体のパートナーシップ等を取り上げるとともに、情報共有など資金メカニズム以外の目標達成メカニズムに焦点を置いた分析をする。

- ハ) 本テーマ及び本研究プロジェクトにおける検討を国際的な議論に効果的にリンクするため、WRI(世界資源研究所)やSEI(ストックホルム環境研究所)などの欧米や途上国の戦略研究機関と連携を図り、国際的に訴求力のある提案を行う。

④ **【公募】サブテーマ**

以下の二つのサブテーマについて研究提案を公募する。

➤ **【公募】サブテーマ(2): 国連を中心とした持続可能な開発のガバナンスの検討**

- イ) 国連での持続可能な開発及び持続可能な開発目標 (SDGs) に関する意思決定やそのプロセスを分析し、目標の設定から、実施、評価、見直しという SDGs をめぐる各段階における国連システム内の各機関の役割分担と調整のあり方等を検討する。また、例えば、持続可能な開発理事会の設置や国連における 2 院制 (政府間及び非政府組織代表) の導入、さらには、加重多数決など意思決定システム改革なども考慮し、意思決定において主要な主体の参加を強化するアプローチを検討する。
- ロ) 国連グローバル・コンパクトや都市間連携など、国連が有する多様な行為主体とのパートナーシップを促進するためのメカニズムが、持続可能な開発目標を効果的に実施していく上で果たす役割を明確にする。また、国連レベルでの決定と、都市やローカルレベルでの実施との間の相互関連性を明らかにし、両者の連携を効果的に行うためのメカニズムを解明する。
- ハ) 国連の場で形成された規範や原則 (Principles) と SDGs との関係、さらには、気候変動、エネルギー、生物多様性、人権関連条約等の制度的枠組みと、MDGs や SDGs 等ソフトでインフォーマルな制度との間の多面的な関係を分析し、効果的ガバナンスのあり方を提示する。
- ニ) 国連での論議動向を把握しつつ国際的な研究ネットワークと連携しながら研究を進めるなど、国際的インパクトと広がりをもつ、普遍性の高い研究を実施することが望ましい。

➤ **【公募】サブテーマ(3): 効果的資金メカニズムの検討**

- イ) SDGs を達成していく上で、国連その他の国際システム、政府などの公的部門、さらには、民間による資金提供が果たしうる役割や資金ギャップを同定する。目標の設定、実施、評価、見直しという SDGs のステージごとに、また、先進国、新興国、途上国など国の発展レベルの相違に応じた資金ニーズについて検討する。
- ロ) 公的資金に関しては、特に共通だが差異ある責任に基づく、あるいは、これに代わる原則に基づく国際資金メカニズムを検討するとともに、ODA、さらには、MEA(多国間環境条約)などによる既存資金メカニズムを SDGs の推進に動員するためのオプションを提示する。
- ハ) GAVI アライアンスや予防接種のための国際金融ファシリティ等の既存の資金メカニズムや、国際連帯税や持続可能な開発・地球公共財基金等の新たな革新的資金メカニズムなどを分析し、SDGs の促進のために、それらの資金メカニズムが効果的に適用されうる条件や可能性等を検討する。